

演題名：当健診センターにおける便潜血陽性者の動向と今後の課題

【目的】当健診センターにおける便潜血陽性者の動向と今後の課題について検討しました。

【対象】当センターでは2010年4月より要精密検査指示者に対し、健診結果に紹介状を同封し1ヶ月後に封書にて連絡するようにしています。2010年4月から2016年3月までに当健診センターで便潜血検査を行った183,679名（男性108,651名女性75,028名）を対象としました。

【結果】延べ便潜血陽性者9,740名 要精密検査指示率5.3% 精密検査実施数3050件 平均実施率31.3%（年度別23.8～39.6%）精密検査所見は、・異常なし887件 大腸がん104件 カルチノイド4件 腺腫性ポリープ1208件 非腺腫性ポリープ303件 潰瘍性大腸炎19件 大腸憩室237件 その他458件です。大腸がん104件のうち早期がん86件進行がん15件不明3件。進行がんは経年受診の初回精査指示の場合34件中1件のみで2.9%、経年受診の精査複数回指示の場合は41件中7件17%、当健診初受診からは29件中7件24%でした当健診受診以前の検査歴は不明です。

【まとめ】2012年より人間ドックでの面接体制が強化され受診者に精密検査の受診勧奨をする機会が増えた事により、2011年までと比べ精密検査受診率の増加傾向が見られました。しかし、平均では31.3%と低調な状況が続いています。進行がんの割合を見ると早期に精密検査を受診する事の重要性が分かります。様々な理由で大腸内視鏡検査を敬遠する方もいます、受診者にとって受容性の高い検査の導入の必要性が考えられました。＜BR＞今後の課題は健診施設で大腸内視鏡検査を実施する環境作りが難しく検査の選択枝を広げる意味でも大腸CT検査の導入も有効な手段と思われます。今年度中に当健診センターでも大腸CT検査を導入していく予定で準備をしている最中です。